

橋本 澄朗（はしもと すみお）

〔考古学〕

〔文化財保護〕

昭和 20（1945）年 5 月 4 日生 （満 76 歳）

益子町在住

氏は、大学卒業後、県立高等学校の教諭を経て、栃木県教育委員会事務局文化課に着任し、埋蔵文化財の保護に従事された後、栃木県立博物館の開設をはじめ、同館特別研究員、栃木県埋蔵文化センター調査部長、栃木県立しもつけ風土記の丘資料館副館長を歴任されるなど、永年にわたり、栃木県における考古学研究の第一線で活躍されております。

また、栃木県及び宇都宮市において文化財保護審議会委員を務められ、宇都宮市の根古谷台遺跡や上神主・茂原官衙遺跡の国指定に携わられたほか、真岡市史や芳賀町史などの市町史の編纂、さらには、市町の文化財の総合的な保存活用の指針である「歴史文化基本構想」の策定に携わるなど、栃木県の文化財保護に大きな功績を残されております。

さらに、國學院大學栃木短期大学において文化財学の講師を務め、後進の育成に尽力される一方で、弥生時代から中世にかけての論文を多数執筆されており、さらに、栃木県考古学会会長として、50 周年を記念する講演会の開催や記念誌「とちぎを掘る」の出版など、栃木県の考古学研究の牽引役として貢献されております。